

教

室には日曜日午前中の穏やかな陽光が降り注ぐ。この日は女性モデルを囲んでの制作。スミス・ティファニーさんは真剣な表情でモデルを見つめ、白いキャンバスにじっくりと絵筆を置いていく。ティファニーさんはカリブ海に浮かぶ島国・バハマ出身。現在、市内の私立中高と幼稚園でALTとして働いている。

ティファニーさんの通う「日曜アトリエ」を担当するのは大江良二先生。「この教室は基本的に、1カ月1作品に取り組んでもらいます。油絵でも水彩でも使いたい画材は自由。自分のアトリエのようにのびのびと制作してもらいたい。筆が止まったときに「たまたま」先生がいる、というスタンスです」と大江先生は説明する。

モデルさんの休憩で作業が中断すると、ティファニーさんは大江良二先生にアドバイスを求める。ほかの受講生たちもやってきて感想を語り合う。英語交じりの会話を中心に笑い声が起る。

アメリカでの学生生活で日本文化に興味を持ったティファニーさんが来日したのは8年前。そのほとんどを佐賀で過ごしている。「佐賀は自然が豊かでみんな優しく住みやすい町です。バハマに似ています」と語る。日本文化も積極的に学ぶ。「草月流の生花を習ったり、有田

居心地の良い場所から一歩外へ

日曜アトリエ

スミス・ティファニーさん



焼や唐津焼、備前の器を集めたりしています。手に入れた着物は家族へプレゼントしました。

そんなティファニーさんが約2年前に教室に通い始めたきっかけはモチモチさがあったという。「いつも読んでいます！地元の人へのインタビューが良いですね。ちょうどアメリカの友人に、もっと

クリエイティブになりたい！と相談した時でした。絵に挑戦するよう背中を押してもらい、モチモチでこの教室のことを知り、通い初めました」と振り返る。元々、美術館に行くのは好きだったが、絵を描いたのは学校の授業程度だったという。「居心地の良い場所から一歩踏み出したい。そのために絵にチャレンジしました。同じ題材に向っても、みんなそれぞれ表現は違います。「青色」といってもひとつではありません。それぞれの色を探ることが重要だと思えるようになりました。絵を描くことは人生に似ていますね」と笑うティファニーさん。習いごとは自分自身への挑戦なのだ。

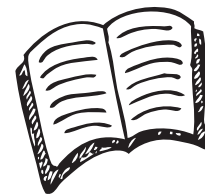


日曜アトリエ 第1～4日曜/10:00～12:00
講師/大江良二
受講料/16,848円(3ヶ月)
お問い合わせは… 佐賀新聞文化センター ☎0952-25-2160

特集

2018春

習いごとは自分へのチャレンジ!!



最

近なにかと耳にする「人生100年時代」。政府も内閣府に構想推進室を設置。超高齢化社会において、人々がいかに活力を持つて時代を生き抜いていくかをテーマに、それを支える社会システムを考えようとしている。同構想会議では、現在、日本に生まれる子供の半分が100歳以上の人生を生きる、と考えられているという。

これまでは60歳をひとつの節目にそれからが老後という人生が標準的だった。しかし「人生100年」となると、その節目がもっと後ろに、ほぼ80歳近くになることが予想されている。充実した100年を過ごすためには「学び直し」が重要になってくる。

佐賀新聞文化センターでは現在435講座を運営しており、2770人の受講生が通っている。年齢層も10代から80代以上まで。それぞれの興味のあることに挑戦している。

今回の特集ではいろいろな背景を持つ受講生10人に話をきいた。みなさんに共通していたのは、自分自身を磨くためにチャレンジしていること。「好きなことをやる」という単純なことがもたらす充実感があふれていた。

仕事をしながらでも、退職した後でも学びたいときが「習いごと」を始めるタイミング。春の訪れを感じる4月こそ、一歩を踏み出すのにふさわしい。

この日は発表会前の最後の授業。「先生！この曲もう1回やっこ!!」。井原知子さんが明るい声で呼びかける。ウクレレの音がそろそろよう、時間ギリギリまで発表曲の仕上げに取り組み。

井原さんは京都の出身。「夫の転勤でジャカルタに住んだとき、現地のアンクルンという竹の楽器のサークルに入ってから楽器演奏にハマりました」。フルー

楽しいウクレレ初級 井原知子さん



大人の習いごとって本当に自由!!!

ト、バイオリン、ピアノといった楽器にも挑戦したという。「楽器熱」は佐賀に赴任しても醒めず「ギター」の音が好きで挑戦してみたんですけど、指がつかなくて無理でした。ウクレレは弦素材が柔らかいので大丈夫かな、と思い、モチモチさが読んでこの教室に通い始めました」と振り返る。

ウクレレの魅力について「ウクレレは音がコロコロしていてかわいいで



楽しいウクレレ初級 第2・4水曜 / 18:30~20:00
講師/佐藤国彦
受講料 / 10,044円 (3ヶ月)
お問い合わせは… 佐賀新聞文化センター ☎0952-25-2160

す。弾くとやっぱりハワイっぽい。家では練習しません。ひとりで弾いていても楽しくないので。みんなで合奏するのが好きなんです。それぞれが出している音がぴったり合った瞬間、すごく楽しくなります」と語る。

「楽しいウクレレ初級」は小学生から大人までバラエティ豊かな生徒さんが集まっています。「みんな仲良く練習しています。生徒さんの発表会を見に行ったり。できないことをできるようにするために教室へ通っているので新しい難しい曲にもチャレンジしたい」と語る。

楽器の練習のほか、インドネシア語も学んでいるという井原さん。「新しいことに挑戦するのが好きです。習いごとが生活のリズムになっていきます。チャレンジする心がなくなったら終わり。こちらに知り合いがいないので、習い事は人と話す貴重な時間でもあります」と微笑む。

井原さんは子どもたちからずっとエレクトーンを勉強していたという。「子どものころの習いごとは「習わされていた」。大人になったら、自分がしたいから習う。好きなことができるから同じ音楽でも大人の習い事は楽しい。本当の自由を味わっている気がします」と語る。

「体」のどこにどんな響きがあるか、自己観察してください。古川京子先生がゆっくりと言葉を重ねてゆくとつれて、教室の空間に穏やかな空気が流れていく。最初の15分は呼吸と瞑想の時間。その後、定番のポーズのほか、季節ごとにインド神話に由来するいろんなポーズに挑戦していく。最後は再び呼吸と瞑想。その間、古川先生は途切れることなく言葉で体の動かし方を説明する。古川先生は「ヨーガは目の見えない人でもできると言われます。また、自分の中の自分への



身体と対話して「整える」

楽しいホームヨーガ 山下文さん

問いかけでもあり、そこに発見があります」と語る。

山下文さんが「楽しいホームヨーガ」に通い始めたのは、立ち仕事で腰を痛めたことがきっかけだったという。「眠れないくらい痛くなりました。ケガ予防と体のメンテナンスのためヨーガを始めたら、しばらくして痛みがなくなりました」と振り返る。

返る。以来、10年以上同じ先生のクラスに通っている。

仕事をしながら通うのは難しいのでは、との問いかけに山下さんは「休むとんだか違和感があるんです(笑)。忙しくて、この時間に通えなかったら、別の曜日に振替えられるので大丈夫です」と答える。「ヨーガをやっていると、今日は調子良く

ないな、とその時の体調に気づくことができます。この教室はメンタル面も含めて自分を「整える」時間です。難しいポーズをどうしたらうまくできるのか、ヨーガを極めたいという思いがあります。そんな山下さんを古川先生は「最初は体が硬い印象でした。まじめにずっと通うことで体が出来てきました。今では自

分です。調子が分かるようになっていと思えます。ぜひインストラクターを目指してほしいですね」と評する。

古川先生はヨーガの目的について「心のコントロールがメインであり、痛みが和らいだり痩せたりすることは副産物です。体をコントロールすることで、心を静かな湖面のような状態にする。すると心の湖面に葉が1枚落ちていく。自分の内面がどういう状態かを認識することが大切で。忙しい人ほど長く続きます」と教えてくれた。週に1回の自分との対話。心のメンテナンスとして機能している。



楽しいホームヨーガ・月

第2・3・4月曜
18:45~20:15
講師/古川京子
受講料 / 12,636円 (3ヶ月)

お問い合わせは…
佐賀新聞文化センター
☎0952-25-2160

「まずは楽譜をきちんと理解すること。テンポをきちんと読み取れないから、慌ててしまつて音程が狂う。手拍子できちんとテンポを練習しましょう」。スタジオに井上明子先生の声が響く。「プライベートボーカルレッスン30分間」は先生と生徒が1対1。密度の

プライベートボーカルレッスン30分間 内田陽一さん

1対1レッスン「夢はユーチューバー」

濃い時間が流れる。この日は大川市在住の内田陽一さんが目前に迫った発表会のための歌を仕上げていた。レッスンは非常に論理的に進む。2回目はテンポが良くなった。「テンポに気を取られて感情が疎かになっていきますね」と井上先生が指摘する。もう1回。「うん、大分良くなりましたね。テンポと感情のバランスが良くなりました」。内田さんもほっとした表情になる。



めの言葉」をすでにアップしている。英語字幕もあって本気度が伝わってくる。元々、歌を歌うのは好きじゃなかったが、教会で歌うことになり「面白いな」という気持ちになったのだという。内田さんは「ミサのときに歌って、声が大きかったのでちょっとしたらという思いがありました」

と振り返る。確かによく通る良い声だ。井上先生も「いい声でしょ。歌も上手だけど、いかんせん基礎ができていないから、もっと上手にしてあげたいと指導しています。真似だけではだめです。自分の声に自惚れてはいけません」。期待しているからこそ、きちんと指導する。

「ずっとユーチューブの動画を参考に練習してきましたが、井上先生にちゃんとした練習法を具体的に教えてもらって、ターンと響くような音が出せるようになりました。私の

メンタル面をちゃんとつかんで、こういう言葉をかければ家で練習してくるかな、先生に見抜かれているようです。2週に1回の練習がとても楽しみです」と語る内田さん。井上先生も「今まで一度も休まれたことはありません。ムチウチになってもいらつしゃいました」とその熱意を証言する。

原因をきちんと探り、その解決策を具体的に提案できる。感覚的ではなく論理的な指導法だから、だれでも理解できて、どんどん上手くなっていく。だから楽しい。プライベートレッスンでは習いごとの真髄を味わうことができる。

元気になりましょう
～プライベートボーカルレッスン(30分間)～
第2・4火曜 / 15:00～21:00
講師/井上明子 受講料/18,144円(3ヶ月)
お問い合わせは… 佐賀新聞文化センター ☎0952-25-2160

障

子を開けると三味線の音と先生が優しく教える声が聞こえてきた。提携教室「はじめての長唄三味線」は杵家弥栄先生の自宅で行われている。この日は「娘七種」に挑戦。受講生の小柳オヨ子さんが弥栄先生の導きに合わせ弦を弾く。澄んだキレの良い音が響く。「たたたんたん。音が多かったですね」と先生が間違いを指摘すると、小柳さんは「うふっ」と微笑む。

小柳さんは長崎・五島の出身。三味線の音には幼いときの思い出が詰まっているという。「集落で上棟式などのお祝いごとがあると、三味線に合わせて父が都々逸を唄っていました。その音色が大好きでいつか自分も習いたい、と思っていたんですが、子育てや家事に追われて気づくと80歳近くになっていました」。

2014年からこの教室に通っている。「ここに来たときに先生から楽器の中で三味線が一番難しい、と聞いて、あら私、とんでもないところに来たね、と思つたんですよ。どうしようかな、辞めようかなと思つたんですけど、先生が優しく教えてくださるので。だから、石の上にも3年というから、3年は来ます、と言つたんです。そしたら5年目になりました」と笑う。



はじめての長唄三味線 小柳オヨ子さん

毎日練習を欠かさないと小柳さん。「毎日、三味線に触ります。そうしないとその日が明けません。お稽古が終わらないと外出しません。夢中なんです。力を抜いてと言われるんですけど、どんな前のめりになってしまっています」。弥栄先生は「すごい努力家さんです。耳も良いので、きれいな音を出しています。そろそろ唄にも挑戦しましょうね」と語る。小柳さんは「歌っていると弾くのを忘れちゃうんです」と返す。

80歳から念願の習いごと



初めての長唄三味線
第1・2・3月曜 / 10:40～11:40
講師/杵家 弥栄
受講料/14,580円(3ヶ月)
お問い合わせは… 佐賀新聞文化センター ☎0952-25-2160

小柳さんは長唄三味線以外にも俳句と表装の教室に通っている。「俳句は家にじっとしていたらできません。だから、ときどきつぶやくんです。そうしたら娘婿が、お母さんどこか行きたいところはないですか、と言ってくれます。本当に恵まれています」。何歳になっても挑戦したいことがある。その気持ちが「人生100年」時代を楽しく生きる秘訣かもしれない。